

「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」「IPSJ Digital Courier」原稿執筆案内

2002年9月改訂

2004年4月改訂

2005年5月改訂

2006年4月改訂

2.1. 発行の目的

情報処理学会論文誌と IPSJ Digital Courier（オンライン英文誌）は会員の研究成果の発表およびこれに関連する討論の場を提供するために発行される。

2.2. 掲載記事

(1) 掲載記事は会員が自発的に執筆し投稿するので、論文、テクニカルノートおよび誌上討論の3種類がある。

・論文

学術、技術上の研究あるいは開発成果の記述であり、新規性、有用性などの点から、会員にとって価値のあるもの。

・テクニカルノート

新しい研究開発成果の速報または技術上の新しい提案。

・誌上討論

掲載された論文またはテクニカルノートに対する質問および回答。

(2) 学術雑誌に投稿中または採択された論文と内容が同一の投稿原稿は採録しない。採録後に二重投稿の事実が判明した場合は、採録取消もあり得る。ただし、本論文誌に採択されたテクニカルノートをもとに発展、充実させたものはその限り

ではない。

(3) 投稿者は原則として本学会会員に限る。寄稿者が連名の場合は、少なくとも1名は本学会会員でなければならない。

(4) 掲載記事の内容についての最終責任は著者が負うものとする。

2.3. 投稿手続

(1) 投稿原稿は日本語あるいは英語で、表-1に示す刷上標準ページ数に収まるように記述することが望ましい。

(2) 投稿原稿の形式は、2.8記載の「論文投稿形式」に従わなければならない。ただし、誌上討論に関しては形式は自由とする。

(3) 特に著者から申し出がない場合は、英文論文（英文テクニカルノート含む）は、IPSJ Digital Courier から電子刊行されるとともに、紙媒体である論文誌にも掲載される。著者の意志により IPSJ Digital Courier からの電子刊行のみ

(IPSJ Digital Courier Digital Publishing Only。以下「DC-DPO」と呼ぶ)

を選択することができる。

DC-DPO を選択する著者は、論文投稿時にあらかじめ申し出なければならない。なお、DC-DPO は

表-1 論文誌の投稿記事種目

種目	内容	刷上標準ページ数	ワープロによる和文記事原稿枚数	英文記事語数
(1) 論文	学術、技術上の研究あるいは開発成果の記述であり、新規性、有用性などの点から、会員にとって価値のあるもの。	8	24	6,000
(2) テクニカルノート	新しい研究開発成果の速報または技術上の新しい提案。	4	12	3,000
(3) 誌上討論	掲載された論文またはテクニカルノートに対する質問および回答。	1	3	750

原稿枚数、語数はタイトルや図表などすべてを含めた数値
ワープロの場合の原稿用紙（24×26行＝624字）
英文記事は刷上1ページあたり約750語

表-2-1 論文誌論文用別刷価格表

(単位：円)

ページ数 部数	1	2	3	4	5	6	7	8	9
100	11,550	23,100	34,650	46,200	57,750	69,300	90,300	111,300	142,800
200	12,600	24,150	35,700	47,250	59,325	70,875	91,875	112,875	144,375
300	13,650	25,200	36,750	48,300	60,900	72,450	93,975	114,975	146,475
400	14,700	26,250	37,800	49,350	62,475	74,025	96,075	117,075	148,575
500	15,750	27,300	38,850	50,400	64,050	75,600	98,175	119,175	150,675

なお、8ページを越えるときは、1ページにつき31,500円加算する。カラーの場合は1ページあたり通常の4ページ分と換算する。

表-2-2 論文誌テクニカルノート用別刷価格表

(単位：円)

ページ数 部数	1	2	3	4	5
100	11,550	23,100	34,650	46,200	77,700
200	12,600	24,150	35,700	47,250	78,750
300	13,650	25,200	36,750	48,300	79,800
400	14,700	26,250	37,800	49,350	80,850
500	15,750	27,300	38,850	50,400	81,900

なお、4ページを越えるときは、1ページにつき31,500円加算する。カラーの場合は1ページあたり通常の4ページ分と換算する。

表-2-3 DC-DPO掲載料

(単位：円)

ページ数	1~8	9	10	11	12
価格	73,500	94,500	115,500	136,500	157,500

なお、8ページを越えるときは、1ページにつき21,000円加算する。カラーでも料金は変わらない。

2006年6月1日以降の投稿論文に限る。

(4) 投稿原稿に対し学会は、受付日と受付番号を付した原稿受領書を発行する。投稿原稿の問合せなどは、以後、この受付番号で行うものとする。

(5) 原稿の送付先および問合せ先は下記の学会事務局とする。

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5

化学会館 4F

(社) 情報処理学会 論文誌担当

電子メール editt@ipsj.or.jp

Tel (03)3518-8372 Fax (03)3518-8375

2.4. 投稿原稿の取扱い

(1) 論文とテクニカルノートは、査読委員によるブラインド査読を行う。論文の場合、著者に照会し回答を求めた上で、改めて審査を行い採否を決定することがある。

(2) 採録が決定した論文、テクニカルノートは、委員会開催月下旬に Web 上でその旨を発表する。また、論文誌に掲載する際には、末尾に、原稿受付日および採録決定日を付記する。英文論文はオンライン版の所在も付記する。IPSJ Digital Courier に掲載する際には、末尾に、原稿受付日お

よび採録決定日、掲載日を付記する。

(3) 条件付採録の場合は、部分的に論旨が不明な点、あるいは錯誤と思われる個所について、照会を行う。照会は原則として 1 回とする。照会への回答は書面で行う。採録の条件に関連して原稿に手を加えることができる。この場合、変更箇所と変更理由を明示しなければならない。回答期限は 3 カ月以内で、これを経過した場合は、取り下げたものとみなす。

(4) 不採録と決定した原稿は、不採録理由を付して著者に返却する。

(5) 投稿論文およびテクニカルノートは、次の場合に不採録とする。

- 本学会で扱う分野と大きくかけ離れている。
- 本質的な点で誤りがある。
- 本質的な点が公知・既発表のものに含まれており、新規性が不明確である。
- 内容に信頼できる根拠が示されていない。
- 本学会関連の学術や技術の発展のための有効性が不明確である。
- 書き方、議論の進め方などに不明確な点が多く、内容の把握が困難である。
- 条件付採録で示した条件が満たされていない。

い。(投稿論文のみ適用)

h. その他編集委員会が不適当と判定したもの。

(6) 著者は投稿原稿を取り下げることができる。この場合、書面で論文誌編集委員会に申し出なければならない。

2.5. 掲載決定通知, 別刷等

(1) 投稿原稿の採録が決まると、採録決定通知を投稿者に送付する。この時点で、電子入稿のための案内を同封するので、その指示に従い、最終原稿を提出すること。

(2) 採録原稿の掲載号が決まると、掲載決定通知を投稿者に送付する。

(3) 学会は誤植防止のために著者に校正刷りを送る。校正の際の原稿および図面の変更は認めない。

(4) 著者から誤謬訂正の申し出があった場合、正誤表を最近号に掲載する。事情により有料となることがある。

(5) 論文誌に掲載された論文、テクニカルノート of 著者は、それらの別刷を 100 部以上買いとらなければならない。価格は表-2-1、2-2 による。著者校正の際、同封の別刷申込書に必要事項を記入の上、校正結果とともに返送しなければならない。DC-DPO を選択した著者は、その掲載料を支払わなければならない。掲載料は表-2-3 による。

(6) 提出された原稿および媒体は返却しない。

(7) 掲載論文のタイトル、著者名および論文は、学会ウェブサイト内 <http://www.ipsj.or.jp> に掲載する。

2.6 著作権

別に定める「情報処理学会著作権規程」に準ずる。特別な事情によりこれに添えない場合は、投稿時に必ず文書で申し出ること。

(1) 図・写真などを引用する場合は、その所有者に必ず了解を得た上で、その出典を明記する。

(2) 商標もしくは登録商標を使用する場合は該当個所にその旨を明記する。

(3) 別途事務局から送付する Copyright Transfer Form に署名し提出すること。

2.7. 個人情報の取り扱い

論文に掲載された氏名・電子メールアドレス・略歴等は、以下でも公表される。不都合がある場合は、原稿送付時に必ず申し出ること。

* 情報処理学会電子図書館、情報処理学会が発行する CD-ROM 等のメディア、情報処理学会が許諾した外部サイト

2.8. 論文投稿形式

2.8.1 投稿原稿の構成

論文誌への投稿原稿は、次の i. ~x. により構成する (i. ~x. でオリジナル原稿一式とする)。

i. 標 題：和英両文で書く。ただし、英文論文の場合は、和文はなくてもよい。原稿の種別を標題の左肩に明記すること。

ii. 著者名・所属：氏名、所属を和英両文で書く。ただし、英文論文の場合は、和文はなくてもよい。共著の場合、著者と所属機関の対応を明示すること。また、会員・非会員の別 (会員の場合は会員番号も)、著者連絡先 (住所、電話番号 (内線)、E-mail 等。複数著者の場合は連絡担当者)*印を付すこと)、ワープロ等の場合論文作成手段 (機種およびソフト名) を用紙の下部に明記すること (2.8.2 参照)。なお、原稿を LaTeX で作成しドラフト用を出力した場合、氏名および所属の英文は印字されないがそのまま提出してよい。

iii. 和文アブストラクト：600 字 (テクニカルノートは 300 字) 以内。英文論文ならびに英文テクニカルノートの場合は不要。

iv. 英文アブストラクト：200 語 (テクニカルノートは 100 語) 以内。

v. 本 文：

vi. 謝 辞：必要ならば付けてもよいが、できるだけ簡単なものとする。特定事項についての援助への謝辞は本文中または脚注で記載した方がよい。

vii. 参考文献：研究内容に関連して文献を引用する場合、関連する本文中の個所の右肩に参考文献番号を書き、末尾にその文献をまとめて記述する (2.8.4 参照)。引用文献は、すでに刊行

物に掲載されているか、あるいは掲載が確定している文献に限る。

viii. 付録：長い数式の誘導の過程や、実験装置などの詳細な説明を本文に挿入すると論旨が不明瞭になる場合、付録を設けてよい。

ix. 図 (2.8.4 参照)

x. 表 (2.8.4 参照)

2.8.2 投稿原稿の様式

情報処理学会論文誌 LaTeX スタイルファイルには投稿用 (draft) スタイルファイルと掲載用 (final) スタイルファイルがある。投稿には投稿用スタイルファイル (以下、単にスタイルファイルという) を用い、それに従って LaTeX で書式付けされた原稿を基本とする。その他のワープロ等で作成した原稿も受け付ける。

i. LaTeX で作成する場合には、スタイルファイルに付属した説明書に従って i. ~x. を記述し、注意事項を守ること。使用できるフォントや組み込むことのできるポストスクリプトファイル (図表等) の形式には制限がある。注意事項が守られていない場合には処理ができずやむを得ず返却することがある。

スタイルファイルの入手方法は学会ウェブサイト内 <http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/shippitsu/wabun.html> で案内されている。インターネットにアクセスすることができない場合は学会に問い合わせること。

ii. 原稿をワープロ等で作成する場合は、A4 判の用紙を使用し、片面打ちとする。字詰は次による。

和文：24 字×26 行 (A4 判の場合、上下左右各 45mm 程度の余白をとる)

英文：ダブルスペースで、1 ページあたり約 250 語。

大見出しは 2 行どりとする。

i., ii., iii.-iv., v.-vii.-viii.-ix.-x., vi はそれぞれ別用紙に、必ず用紙を改めて記述すること。

2.8.3 投稿原稿の提出方法

(1) 新原稿を投稿する際は、次の (A) ~ (D) の紙出力と (E) の電子メールを必要とする。不足がある場合は受け付けない。

(A) 紙出力の原稿 (オリジナル) 一式 (i. ~x.)

(B) キーワード (論文誌投稿用)、論文誌投稿者用原稿チェックリスト 各 2 部：情報処理学会所定のもの。

(C) (A) のコピー 1 部 (i. ~x.)

(D) (A) のコピー 2 部 (ただし査読用として、ii. 著者名・所属および vi. 謝辞を除いたもの)。

(LaTeX のときは i., ii., iii.-iv., v.-vii.-viii.-ix.-x., vi. がそれぞれ別々に出力される)。

(E) 次の 6 項目、標題、著者名、所属、著者連絡先、和文アブストラクト (英語論文の場合は英文アブストラクト)、(A) ~ (D) の発送日をプレインテキストの電子メールで学会事務局 editt@ipsj.or.jp 宛てに送信する。その際電子メールの件名 (Subject) は次のようにする。

新投稿-著者名

(例) 新投稿-情報太郎

(2) 照会済み原稿を投稿する際は、次の (A) ~ (E) を必要とする。不足がある場合は受け付けない。

(A) 紙出力の原稿 (オリジナル) 一式 (i. ~x.)

(B) チェックリスト 1 部：情報処理学会所定のもの

(C) (A) のコピー 1 部 (i. ~x.)

(D) (A) のコピー 2 部 (ただし査読用として、ii. 著者名・所属および vi. 謝辞を除いたもの)。

(LaTeX のときは i., ii., iii.-iv., v.-vii.-viii.-ix.-x., vi. がそれぞれ別々に出力される)

(E) 回答書 4 部 (書式自由。ただし著者名および所属は記入しない。)

2.8.4 原稿執筆上の一般的注意事項

(1) 専門用語については、簡単な用語解説を添付することが望ましい。また本文中に使用する記号には必ず説明をつける。

(2) 参考文献は原則として、雑誌の場合には、著者、標題、雑誌名、巻、号、ページ、発行年を、単行本の場合には、著者、書名、ページ数、発行所、発行年を、この順に記す。次の例を参

照にされたい。

4) 山田太郎：偏微分方程式の数値解法，情報処理，Vol.1, No.1, pp.6-10 (1960) .

5) Feldman, J. and Gries, D.: Translator Writing System, Comm. ACM, Vol.11, No.2, pp.77-113 (1968) .

7) 大山一夫：電子計算機，p.300，情報出版，東京 (1991) .

8) Wilkes, M. V: Time Sharing Computer Systems, p.200, McDonald, New York (1990) .

(3) 図 (モノクロ写真およびカラー写真を含む) および表には、図 1 および表 1 のような通し番号と名称を和文と英文でつける。ただし、英文論文の場合は和文はなくてもよい。英文はその図や表の内容が本文を参照しなくても理解できるよう配慮する。

LaTeX による場合、図表は、ポストスクリプトファイル等を組み込むことも可能。組み込むファイルの形式はスタイルファイルの説明を参照のこと。

紙に描いた図表原稿を提出する場合には、図・表は著者の提出したものをそのまま印刷するので、下記要領により、黒インキでトレースするか、あるいは同等の画質があるものを提出すること。i. 刷上り寸法の 2 倍大にきれいに書き、文字、記号などは明瞭に記入する。ii. 図・表を入れる場所は、原稿用紙の欄外に明記すること。iii. 表はできる限り簡潔に作成し、長い表は、途中を省略するか、あるいは直接製版できる原稿にする。

図・表のできあがり寸法と行数または枚数の換算は次のとおりである。

寸法 (mm)	ワープロ原稿の場合の行数 (24字×26行)
A. 50×34	6 行
B. 67×50	13 行
C. 100×67	26 行
D. 134×100	39 行

(4) 日本語記事の場合、句読点は全角の”。”および”，”を用いる。

LaTeX で使用できるフォントの種類はスタイルの説明を参照すること。それ以外のフォントを使用したときには、予期しないできあがりとなることがある。

キーワード（論文誌投稿用）

1988年7月改訂
 1994年3月改訂
 1995年1月改訂
 2000年3月改訂
 2002年1月改訂
 2003年12月改訂
 2006年6月改訂

[投稿者の皆様へ]

- (1) あなたが投稿する原稿の内容に最も関係の深い小項目（1つ）に◎印、関係する小項目（複数個も可）に○印を付けてください。
- (2) 担当グループは投稿者のご希望に添えない場合もありますので、ご了承ください。

[編集委員・査読委員の皆様へ]

- (1) あなたのご専門の分野に最も関係の深い小項目（1つ）に◎印、関係する小項目（複数個も可）に○印を付けてください。

大項目（担当グループ）	中項目	小項目
201 基礎理論（基盤） [証明付きの理論に関するもの]	01 情報数学	01 グラフ理論
		02 組合せ理論
		03 符号理論
		04 オペレーションズリサーチ
		05 確率・統計
		06 記号論理（形式論理）
		07 非線形力学
		08 複雑系数学（カオスとフラクタル等）
		09 情報理論
		10 その他
	02 アルゴリズム理論	01 グラフアルゴリズム
		02 データ構造
		03 並列・分散アルゴリズム
		04 確率的アルゴリズム
		05 近似アルゴリズム
		06 計算幾何学
		07 発見的アルゴリズム（メタ・ヒューリスティックス、ニューラルネット、遺伝アルゴリズム等）
		08 数値計算と数値解析
		09 数式処理
		10 その他
	03 計算理論	01 オートマトン・形式言語理論
		02 計算可能性の理論
		03 計算複雑性の理論

		04 計算論的学習理論
		05 新しい計算パラダイム（量子計算や分子計算）
		06 その他
	04 プログラムの理論	01 計算モデル
		02 意味論
		03 プログラム変換・合成
	05 論理	01 非標準論理（非単調論理、ファジイ推論、不確実性処理等）
		02 定理自動証明
		03 推論メカニズム
		04 論理設計理論
	06 その他の基礎理論	01 知識獲得と発見科学
		02 理解・識別論
		03 分散・協調 AI
		04 その他
202	計算機アーキテクチャとハードウェア（基盤）	01 計算機アーキテクチャ
		01 プロセッサアーキテクチャ（スーパースカラ、VLIW、マルチスレッド、投機実行、分岐予測、シングルチップマルチプロセッサ、ベクトルプロセッサ、マルチメディア支援等）
		02 メモリアーキテクチャ（キャッシュメモリ、共有メモリ、分散共有メモリ、DRAM 混載、仮想記憶、プリフェッチ、データ転送コントローラ、共有レジスタ、インターリーブ等）
		03 I/O アーキテクチャ
		04 特定用途向けアーキテクチャ（シグナルプロセッサ、グラフィックプロセッサ、ネットワークプロセッサ等）
		05 その他
	02 並列・分散処理技術	01 並列アーキテクチャ（マルチプロセッサ、相互結合網、プロセッサアレイ、SIMD 等）
		02 分散アーキテクチャ（クラスタコンピューティング、グローバルコンピューティング等）
		03 並列化コンパイラ
		04 負荷分散、スケジューリング
		05 並列化拡張言語（OpenMP、MPI 等）
		06 性能チューニング、性能評価（PAPI）
		07 その他
	03 アーキテクチャとソフトウェアの協調技術	01 OS/コンパイラ/言語に対するアーキテクチャ支援（同期、スケジューリング、データ転送等に対するサポート）
		02 アーキテクチャのためのソフトウェア最適化（ソフトウェアによるレジスタ最適化、プリフェッチ、キャッシュ最適化等）
		03 アーキテクチャ・エミュレーション
		04 オブジェクトコード・トランスレーシ

		ヨン
		05 その他
	04 イノベーティブ計算方式	01 量子コンピューティング
		02 DNA コンピューティング
		03 バイオコンピューティング
		04 リコンフィギュラブルコンピューティング
		05 その他
	05 計算機システム化技術	01 実装技術
		02 高信頼化技術
		03 低消費電力化技術
		04 リアルタイム処理技術
		05 システムオンチップ
		06 その他
	06 設計技術と設計自動化	01 設計環境
		02 記述言語
		03 論理合成
		04 配置配線
		05 設計検証
		06 テストパターン生成
		07 ハードウェア・ソフトウェア・コデザイン
		08 その他
	07 論理回路とデバイス	01 論理設計理論
		02 非同期回路
		03 論理デバイス
		04 高速デバイス
		05 メモリデバイス
		06 FPGA
		07 多値論理
		08 その他
	08 各種計算機応用	01 各種計算機応用
203 プログラミング (基盤)	01 プログラミング言語の設計	01 従来言語の改良、拡張、融合
		02 汎用アルゴリズム記述言語
		03 アプリケーションに特化した言語
		04 教育用および初心者用言語
		05 メタ言語
		06 言語の普遍原理、構成要素
		07 その他
	02 プログラミング言語の実装技術	01 コンパイラ
		02 インタプリタ
		03 ローダとリンカ
		04 実行時システム

		05	メモリ管理
		06	組込システム向け実装技術
		07	並列分散システム向け実装技術
		08	その他
	03	プログラミング環境・支援系	01 デバッグ支援
			02 モニタリング、プロファイリング
			03 ソフトウェア可視化
			04 統合環境
			05 ライブラリ、フレームワーク
			06 その他
	04	プログラミング方法論とパラダイム	01 ソフトウェアパターン
			02 自然言語プログラミング
			03 証明・検証つきプログラミング
			04 非デスクトップ環境でのプログラミング
			05 プログラムの検証・解析
			06 その他
204	オペレーティングシステム（基盤）	01	システムソフトウェア設計・構成論
			02 分散システム設計・構成論
			03 並列システム設計・構成論
			04 広域ネットワークシステム設計・構成論
			05 マルチメディアシステム設計・構成論
			06 連続メディアシステム設計・構成論
			07 システム開発環境設計・構成論
			08 その他
	02	オペレーティングシステム機能実装論	01 セキュリティ
			02 リアルタイム
			03 耐故障性
			04 可用性
			05 適用性
			06 拡張性
			07 その他
	03	システムソフトウェア要素技術	01 スケジューリング
			02 プロセス管理
			03 記憶管理
			04 ファイルシステム
			05 I/O 管理
			06 通信管理
			07 ネットワークプロトコル
			08 デバイスドライバ
			09 マルチプロセッサ

		10 その他
	04 組み込みシステム技術	01 モバイル
		02 ウェアラブル
		03 情報家電
		04 アプライアンスサーバ
		05 その他
205 ソフトウェア工学（基盤）	01 要求工学	01 要求獲得
		02 要求分析
		03 要求定義
		04 その他
	02 分析・設計技法	01 分析・設計方法論
		02 オブジェクト指向分析・設計
		03 再利用技術
		04 ソフトウェアアーキテクチャ
		05 ソフトウェアパターン
		06 コンポーネント技術
		07 フレームワーク技術
		08 プロダクトライン
		09 リアルタイムシステム設計
		10 リアクティブシステム設計
		11 方法論工学
		12 その他
	03 形式的手法	01 仕様記述モデル・言語
		02 形式的手法の適用
		03 その他
	04 テスト技法・保守技術	01 テスト工程
		02 テストデータ・テストスイート
		03 プログラム解析・理解
		04 その他
	05 システム評価・管理技術	01 システムメトリクス・見積り
		02 プログラムメトリクス
		03 品質評価・管理
		04 工程・進捗管理
		05 構成・版管理
		06 その他
	06 開発支援環境・自動化技術	01 自動生成技術
		02 シミュレーション技術
		03 モデル化支援
		04 管理支援（構成管理、プロジェクト管理など）
		05 作業支援（コミュニケーション支援も含む）
		06 設計情報表現・設計情報交換

		07 その他
	07 ソフトウェアプロセス	01 プロセスのモデル化と記述 02 プロセスのモニタリングと制御 03 プロセス改善 04 その他
	08 システム運用技術	01 システムの運用, 利用 02 システムの保守 03 その他
206 データベース (基盤)	01 データモデルとデータベース設計	01 概念モデル 02 データモデル 03 データベース操作と言語 04 一貫性制約 05 データベース設計 06 質問・トランザクション処理 07 信頼性・障害時回復・安全性 08 クラスタリング・インデキシング 09 複製管理 10 その他
	02 データベースシステム	01 並列・分散・マルチデータベース 02 主記憶データベース 03 アクティブデータベース 04 モバイル・コンピューティングとデータベース 05 マルチメディアデータベース 06 履歴データベース・版管理 07 地理データベース・空間データ管理 08 時間・時相データ管理 09 放送型情報システム 10 情報資源管理とリポジトリ 11 データウェアハウス・OLAP 12 その他
207 ハイパフォーマンスコンピューティング (基盤)	01 計算科学と数値シミュレーションの理論と実践	01 離散数学とアルゴリズム (計算量、計算幾何学を含む) 02 メディアとネットワークのアルゴリズム (自然言語、圧縮、暗号を含む) 03 離散最適化とヒューリスティクス (学習理論を含む) 04 並列・分散処理アルゴリズム 05 シミュレーション・応用計算のアルゴリズム (チューニング、並列化を含む) 06 シミュレーション・応用計算のハードウェア構成 07 シミュレーション・応用計算の実装と評価 08 その他
	02 数値計算アルゴリズム	01 近似と離散化

	02 線形計算
	03 非線形方程式と最適化
	04 常・偏微分方程式の解法 (FFT、積分変換を含む)
	05 解析と統計 (微分、積分、乱数、モンテカルロ法)
	06 代数方程式の解法
	07 性能評価と高性能化 (チューニング、並列化を含む)
	08 数値計算ライブラリとベンチマークデータセット
	09 その他
03 高性能計算機アーキテクチャ	01 プロセッサアーキテクチャ
	02 メモリアーキテクチャ
	03 計算機接続ネットワーク
	04 I/O システム
	05 クラスタシステム
	06 その他
04 並列処理ソフトウェア	01 並列オペレーティングシステム
	02 クラスタソフトウェア
	03 並列プログラミングインタフェース
	04 並列処理ランタイムシステム
	05 並列化コンパイラ
	06 並列処理支援ツール
	07 その他
05 HPC 利用技術	01 計算結果可視化
	02 運用システム
	03 その他
06 性能評価技術	01 並列処理性能モデリング
	02 ベンチマークと性能測定手法
	03 性能とトレースの分析手法 (可視化を含む)
	04 計算・通信時間のモデリング
	05 実行時間予測とその応用 (シミュレーションを含む)
	06 性能指標 (LINPACK、Spec、計算量、スケーラビリティ等)
	07 性能保証と実時間処理
	08 その他
07 広域分散計算システム	01 セキュリティとユーザ管理
	02 スケジューリングと資源管理
	03 メタコンピューティングシステム
	04 広域分散プログラミングモデルとミドルウェア
	05 広域分散大規模データ処理技術

		06 広域分散処理アプリケーションと事例
		07 その他
208 組み込みシステム (基盤)	01 アーキテクチャ	01 システムアーキテクチャ
		02 コアプロセッサ
		03 DSP
		04 IP コア
		05 演算回路
		06 ソフトウェアアーキテクチャ
		07 低消費電力アーキテクチャ
		08 並列化コンパイラ
		09 負荷分散、スケジューリング
		10 並列化拡張言語 (OpenMP、MPI 等)
		11 性能チューニング、性能評価 (PAPI)
		12 その他
	02 設計手法	01 開発プロセス
		02 設計手法
		03 システム記述言語
		04 HW-SW コデザイン
		05 HW-SW 分割
		06 組込ソフトウェア開発手法
		07 設計プラットフォーム
		08 その他
	03 開発環境	01 開発環境/開発ツール
		02 EDA ツール
		03 コンパイラ
		04 CASE ツール
		05 シミュレーション環境
		06 ラピッドプロトタイピング環境
		07 その他
	04 検証/テストとデバッグ	01 検証/テスト手法と環境
		02 デバッグ手法/デバッグツール
		03 コベリフィケーション
		04 コシミュレーション
		05 テスト容易化設計
		06 安全性と信頼性
		07 その他
	05 OS とネットワーク	01 組込 OS
		02 リアルタイム OS
		03 ミドルウェア
		04 ネットワークとの接続
		05 通信機構と標準化
		06 その他

	06 開発事例	01 開発事例 02 応用事例 03 新しい応用分野への適用 04 性能評価 05 その他
209 バイオインフォマティクス (基盤)	01 データベース	01 塩基配列
		02 ゲノム
		03 タンパク質
		04 相互作用
		05 プロテオーム
		06 生物資源
		07 生態
		08 統合
		09 その他
	02 配列解析	01 相同性検索
		02 多重整列 (ラインメント)
		03 遺伝子領域予測
		04 制御領域予測
		05 局在予測
		06 構造予測
		07 機能予測
		08 その他
	03 ゲノム解析	01 比較ゲノム
		02 遺伝子発現
		03 遺伝子ネットワーク
04 多型情報		
05 医療		
06 その他		
04 モデリング	01 細胞	
	02 発生	
	03 代謝	
	04 免疫	
	05 脳・神経系	
	06 進化	
	07 その他	
05 情報科学への応用	01 遺伝的アルゴリズム	
	02 人工生命	
	03 DNA コンピューティング	
	04 その他	
210 ネットワーク・インターネット基礎 (ネットワーク)	01 ネットワークアーキテクチャ	01 高速・広帯域通信方式
		02 LAN/WAN
		03 ブロードバンドインターネット

	04 クライアントサーバ
	05 ディレクトリ
	06 ルータ・スイッチ
	07 マルチメディア符号化
	08 アクティブネットワーク
	09 その他
02 ネットワークプロトコル	01 データ通信プロトコル
	02 経路制御プロトコル
	03 資源予約プロトコル
	04 マルチキャスト通信
	05 マルチメディア通信プロトコル
	06 分散協調プロトコル
	07 プロトコル設計
	08 プロトコル検証
	09 プロトコル高速処理
	10 その他
03 分散処理	01 同期制御
	02 排他制御
	03 分散資源管理
	04 分散アルゴリズム
	05 負荷分散とマイグレーション
	06 その他
04 分散システム運用・管理	01 Internet/LAN 運用管理技術
	02 セキュリティ/危機管理
	03 障害管理
	04 トラフィック解析/管理
	05 分散システム構築運用技術
	06 次世代通信技術
	07 その他
05 無線・モバイルネットワーク	01 モバイルコンピューティング環境
	02 携帯端末
	03 セキュリティ
	04 モバイルネットワークアーキテクチャ
	05 アドホックネットワーク
	06 モバイルネットワークプロトコル
	07 モバイルネットワーク管理運用
	08 無線 LAN
	09 衛星通信
	10 パーソナルコミュニケーションネットワーク
	11 その他
06 ネットワーク品質・制御	01 トラフィック理論

		02	トラフィック制御・解析
		03	QoS
		04	資源予約
		05	高品質ネットワーク
		06	ネットワークシミュレーション
		07	ネットワーク性能解析
		08	その他
211	ネットワーク・インターネット 応用（ネットワーク）	01	ネットワークサービス基礎
		01	電子メール
		02	WWW
		03	インスタントメッセージとプレゼンス サービス
		04	ネットワークサービスインフラ
		05	インフォメディアリシステム技術
		06	その他
		02	ネットワークサービス
		01	Web 検索エンジン
		02	E-コマース
		03	社会／行政サービス
		04	遠隔教育サービス／Web ベーストレ ニング
		05	ネットワークエンタテイメント
		06	WWW のデザイン
		07	WWW の応用サービス
		08	ホームネットワーク
		09	放送サービス
		10	その他
		03	モバイルコンピューティング
		01	位置情報サービス
		02	モバイルエージェント
		03	モバイルアプリケーション
		04	ユビキタスコンピューティング
		05	ウェアラブルコンピューティング
		06	その他
		04	ITS
		01	交通管理
		02	運転支援
		03	画像処理
		04	通信方式
		05	ネットワーク技術
		06	情報提供・地図情報
		07	インターモダリティ
		08	アプリケーション
		09	その他
		05	ミドルウェア
		01	ミドルウェア構成法
		02	クライアントサーバ
		03	分散オブジェクト

		04 ネットワークミドルウェア	
		05 その他	
		06 分散システム運用・管理	
		01 Internet/LAN 運用管理技術	
		02 障害管理	
		03 トラフィック解析/管理	
		04 分散システム構築運用技術	
		05 その他	
		212 セキュリティ (ネットワーク)	01 セキュリティ基盤技術
		01 共通鍵暗号	
		02 公開鍵暗号	
		03 暗号用ハッシュ関数・乱数	
		04 量子暗号	
		05 情報ハイディング	
		06 秘密分散	
		07 デジタル署名	
		08 その他	
		02 ネットワークセキュリティ	01 コンピュータウイルス
		02 ファイアウォール	
		03 セキュリティプロトコル	
		04 侵入検出・検知	
		05 アクセス制御・認証	
		06 鍵配送・管理	
		07 その他	
		03 セキュリティと社会	01 電子公証
		02 電子政府	
		03 電子投票・入札	
		04 電子商取引	
		05 情報通信倫理	
		06 ソフトウェア保護	
		07 著作権保護	
		08 その他	
		04 危機管理とリスク管理	01 リスク分析・評価
		02 意思決定・戦略	
		03 システム評価・監査	
		04 不正・異常検出	
		05 災害対策・管理	
		06 その他	
		05 信頼性	01 信頼性・保全性理論
		02 信頼性・安全性評価	
		03 信頼度設計	
		04 故障診断・故障解析	
		05 フォールトトレランス	
		06 その他	

213 知能と認知 (知能)	01 知識処理	01 知識表現
		02 機械学習
		03 探索と推論
		04 ニューラルネット
		05 ファジー理論
		06 進化的計算
		07 複雑系
		08 知識発見
		09 知識ベース
		10 分散・協調 AI
		11 その他
	02 認知科学	01 思考モデル
		02 知覚
		03 分散認知
		04 学習過程
		05 コミュニケーション
06 その他		
03 知識コミュニティ	01 情報と知識の管理	
	02 マルチエージェント	
	03 相互理解	
	04 仮想コミュニティ	
	05 その他	
04 応用分野・領域	01 データマイニング	
	02 テキストマイニング	
	03 感性情報	
	04 ロボット	
	05 ゲーム	
	06 エジュテイメント	
	07 その他	
214 言語メディア処理と情報コンテンツ (知能)	01 自然言語	01 言語解析
		02 意味処理
		03 文脈/談話処理
		04 コーパス/言語資源
		05 辞書/語彙意味
		06 機械翻訳
		07 テキスト処理
		08 その他
	02 音声言語	01 音声分析・符号化・強調
		02 音声認識・理解
03 音声合成・テキスト音声変換		
04 音声対話・翻訳		
05 話者・言語識別		

		06 言語モデル・音声言語コーパス
		07 その他
	03 情報検索	01 文書・全文・マルチメディア情報検索
		02 情報の分類・組織化と視覚化
		03 ベンチマーク・テストコレクション
		04 シソーラス・辞書／用語・情報概念体系
		05 その他
	04 Web インテリジェンス	01 Web 検索
		02 パーソナライゼーション・ナビゲーション
		03 利用者・コミュニティ分析
		04 Web マイニング
		05 その他
	05 コンテンツ処理	01 構造化文書記述と文書データベース
		02 複合メディアコンテンツの記述・創作・編集・管理
		03 情報抽出・要約・再構成
		04 その他
215 視聴覚メディア処理（情報システム）	01 音楽情報	01 音響分析・合成
		02 電子楽器・演奏インタフェース
		03 統合的音楽システム・音楽利用支援システム
		04 音楽情報の表現・音楽記述言語
		05 楽譜処理（認識・生成）
		06 音楽分析・音楽認知
		07 作曲・編曲（アルゴリズム作曲、自動作曲）
		08 自動演奏／伴奏／合奏
		09 音楽データベース、音楽情報検索
		10 他メディアとの融合（マルチメディアとしての音楽）
		11 音楽における感性情報処理
		12 その他
	02 画像情報	01 画像補整・幾何補正・画像推定
		02 画像特徴抽出
		03 画像分類
		04 画像符号化
		05 画像認識・理解
		06 動画認識・理解
		07 アクティブビジョン
		08 3次元形状・反射特性推定・計測
		09 その他
	03 コンピュータグラフィックス	01 情報可視化
		02 形状モデリング

		03 CAD
		04 画像生成
		05 仮想／人工／拡張現実
		06 アニメーション
		07 応用システム
		08 その他
	04 複数モダリティ	01 メディア変換
		02 統合
		03 その他
	05 身体情報・物理世界への働きかけ	01 身体情報・物理世界への働きかけ
216 インタラクション（情報システム）	01 ヒューマンインタフェース基礎	01 感性情報処理
		02 インタフェースデザイン
		03 ユーザモデル
		04 ユーザビリティ
		05 メディアアート
		06 認知モデル
		07 その他
	02 ユーザインタフェースとインタラクティブシステム	01 グラフィカルユーザインタフェース
		02 パーセプチュアルユーザインタフェース
		03 入出力デバイス
		04 協調インタフェース
		05 マルチモーダルインタフェース
		06 携帯端末インタフェース
		07 没入型インタフェース
		08 ウェアラブルコンピューティング
		09 タンジブルコンピューティング
		10 その他
	03 知的創造作業支援	01 創造性/発想支援
		02 学習支援
		03 設計/デザイン支援
		04 オーサリング支援
		05 創作支援
		06 その他
	04 グループインタラクション支援とグループウェア	01 協調基礎
		02 コミュニケーション支援
		03 協調作業支援
		04 グループ意思決定支援
		05 グループ発想支援
		06 協同学習支援
		07 会議支援

		08	組織知とナレッジマネジメント		
		09	ビジネスプロセスとワークフロー		
		10	グループウェアフレームワーク		
		11	モバイルグループウェア		
		12	電子メール応用システム		
		13	情報共有システム		
		14	共有仮想環境		
		15	その他		
		217 情報と人文・社会科学 (情報システム)	01 教育	01	情報教育
				02	情報技術者教育
				03	教師教育
				04	障害者教育
				05	教育支援
				06	教育の設計、測定、評価
				07	教材開発
08	学習				
09	その他				
02 学習支援	01		チュータリングシステム		
	02		語学学習 (CALL)		
	03		協調学習		
	04		遠隔学習		
	05		生涯学習		
	06		学習支援モデル		
	07		その他		
03 医療・福祉支援	01		医療・福祉支援		
04 社会活動支援	01		組織活動支援		
	02		コミュニティ支援		
	03		ユニバーサルデザイン		
	04		電子政府		
	05		ネットワークコミュニティの理論とモデリング		
	06		コミュニティ形成支援システムの開発と運用		
	07		その他		
05 社会・人間系の情報システム	01		情報、データ、知識の管理		
	02		情報ニーズ		
	03		社会基盤としての情報システム		
	04	地域情報システム、環境情報システム			
	05	組織活動を支える情報システム (経営システム、非営利活動)			
	06	個人を支える情報システム (情報サービス、自己責任、倫理と法等)			
	07	エンドユーザコンピューティング			
	08	情報と情報技術			

		09 組織の変革と情報技術
		10 アプリケーションフレームワーク
		11 情報システムの社会や企業への適用
		12 eビジネス
		13 その他
06	情報システムと社会	01 情報システムの個人、組織、社会との関わり
		02 情報システムと法、倫理
		03 情報システム技術者の専門性
		04 リスク管理と情報システム
		05 その他
07	人文科学への応用	01 モデル構成
		02 数値処理
		03 テキスト分析
		04 イメージ処理
		05 デジタルアーカイブ
		06 メタデータ
		07 復元と再構成
		08 博物館・美術館・図書館
		09 芸術
		10 その他
08	倫理と法制	01 標準化（国際化、地域化）
		02 情報倫理
		03 知的所有権
		04 その他

・ キーワード表にとらわれず、投稿内容を表すキーワードを書いてください。

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

論文誌投稿者用原稿チェックリスト

2006年6月改訂

必要事項を記入，選択すること

投稿種目	論文 (一般・推薦・特集：特集名) テクニカルノート (一般・推薦・特集：特集名) 誌上討論	
DC-DPO の選択 (英文のみ)	IPSJ Digital Courier Digital Publishing Only(DC-DPO)を選択する場合のみ下の□に「レ」を記入してください。 ※ 英文論文(テクニカルノートを含む)のみの適用となります。DC-DPO 限定の特集号を除き特集号には適用されません。各特集号の論文募集案内でご確認ください。 投稿後の選択変更はいたしかねます。DC-DPO についての詳細は原稿執筆案内でご確認ください。	
論文の性格		原稿 枚
和文標題		図 枚
英文標題		表 枚
		アブストラクト 枚
		刷上予定枚数 枚
項 目	検 討 内 容	自己判定欄
標 題 抄 録 等	第3者(著者以外の人)が目を通してしているか	はい, いいえ
	和文標題は内容を適切に表現しているか	はい, いいえ
	英文標題は内容を適切に表現し, 英語としても適切か	はい, いいえ
	アブストラクトは主旨を適切に表現し, 英文も適切か	はい, いいえ
本 文	在来研究との関連, 研究の動機, ねらい等が明確に説明されているか	はい, いいえ
	既発表の論文等との間に重複はないか	はい, いいえ
	章, 節のたて方, 全体の構成等は適切か	はい, いいえ
	説明に冗長な点, 逆に簡単すぎる点はないか	はい, いいえ
	説明に飛躍した点はないか, 仮説等の説明は十分か	はい, いいえ
	記号・略号等は周知のものか, 用語は適切か, 図・表の説明は適切か (本文中および各図表のキャプション)	はい, いいえ
	科学技術論文として不適当な表現や, 分かりにくい表現はないか	はい, いいえ
	結論が明確に記されており, 範囲, 限界, 問題点などの指摘が適切で, 内容にそったものであるか	はい, いいえ
図 表	図表自体は十分に明確であるか, 誤りはないか	はい, いいえ
	十分に鮮明か	はい, いいえ
	大きさ, 縮尺の指定は適切か	はい, いいえ
文 献	適切な文献が引用されており, その数も適切か	はい, いいえ
総合評価	創意の程度(最高を5とした5段階評価)	
	資料価値, 読者にとって有益な情報の量(最高を5とした5段階評価)	
	興味を持つ読者の多少(非常に多い場合5, ほとんどないとき1)	